

この資料は、審議会における検討用に作成したものであり、市として正式に公表しているものではありません。

地域特性について



くらしき環境キャラクター「くらいふ」

令和4年8月30日

倉敷市 地球温暖化対策室

1. 倉敷市の概要

- 本市は、岡山県の南西部に位置し、市域の面積は355.63km²（県内で8番目）で、東に岡山市、早島町、玉野市、西に浅口市、矢掛町、北は総社市と隣接している。
- 南は瀬戸内海に面し、中央部には備中平野が広がり、北から南へ高梁川が流れています。また、平野部を取り囲むように丘陵や山が広がっているが、概して標高は低く、斜面も緩やかで、南部の一部では山が海に迫っているところがある。
- 古くから瀬戸内海に開く海運都市であり、その周辺地域には、農業・水産業・繊維産業等が栄えてきた。現在では、全国でトップクラスの製造品出荷額等を誇る水島コンビナートを有する工業都市として、また、倉敷美観地区をはじめとした伝統的建造物群のある文化観光都市として歩んでいる。

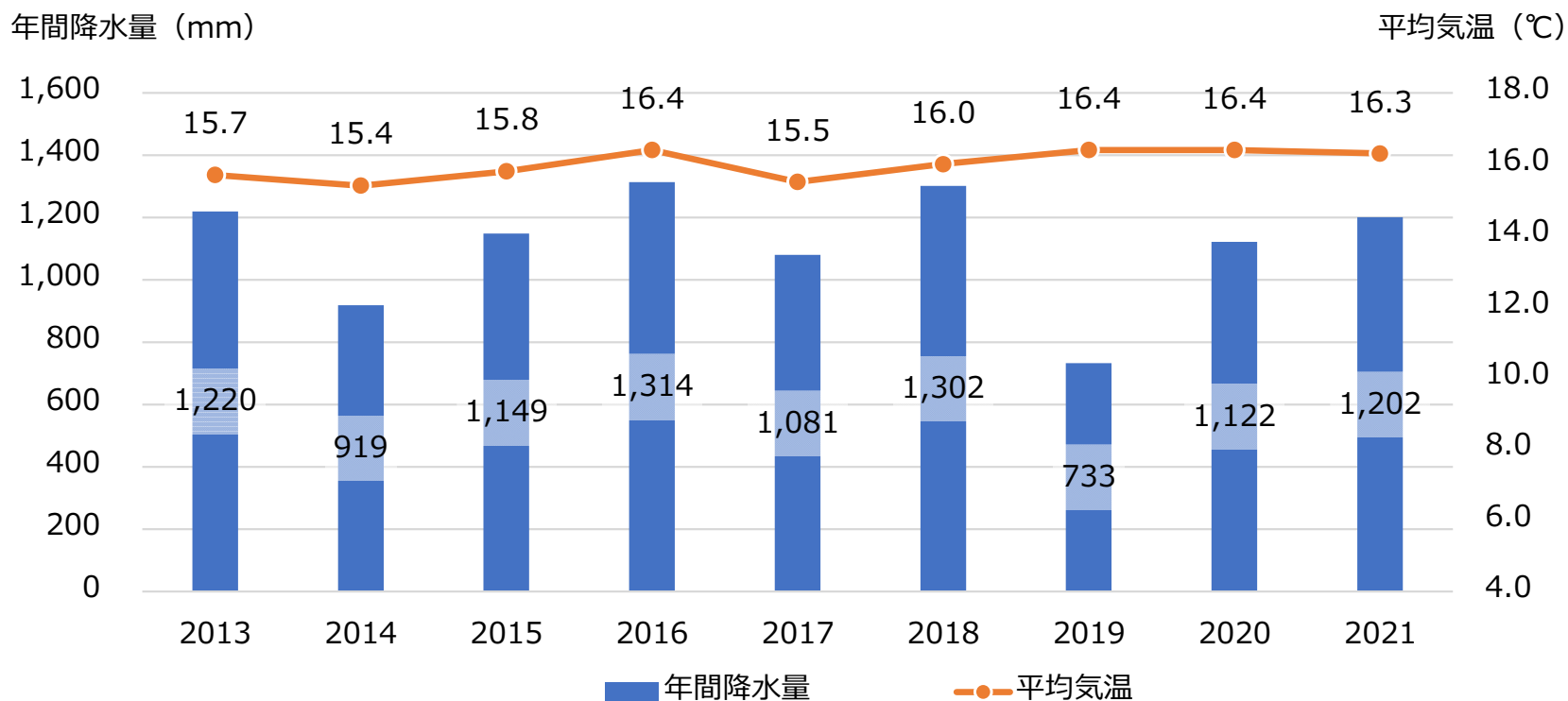


倉敷市の位置



2. 気象

- 本市の気候は、温暖少雨な瀬戸内海式気候に属しており、2021年の降水量は合計1,202mmとなっている。
- 平均気温は2021年は16.3℃であるが、長期的には上昇傾向にあり、地球温暖化の影響が見られる。



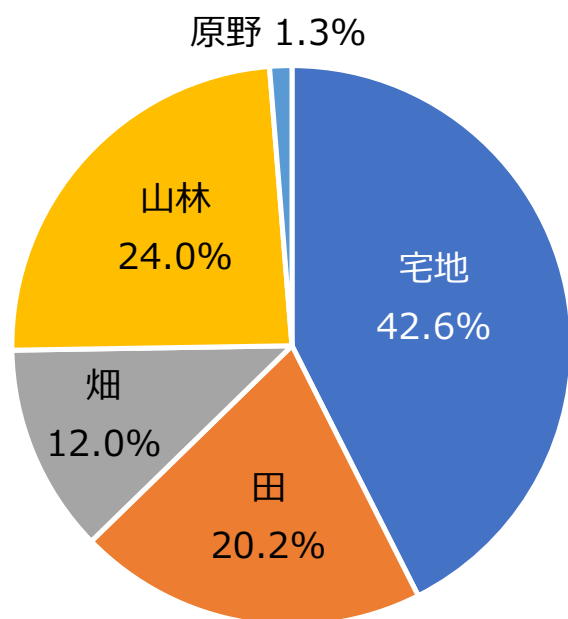
年間降水量及び平均気温の推移

※出典：気象庁データより作成
(岡山地方気象台倉敷地域気象観測所)



3. 土地利用

- 民有地面積の割合は、宅地が42.6%、山林が24.0%、田が20.2%、畑が12.0%、原野が1.3%となっており、高梁川流域圏の7市3町の中でも宅地の割合が2番目に高くなっている。



民有地面積の割合
(2020年1月1日現在)

※出典：岡山県統計年報

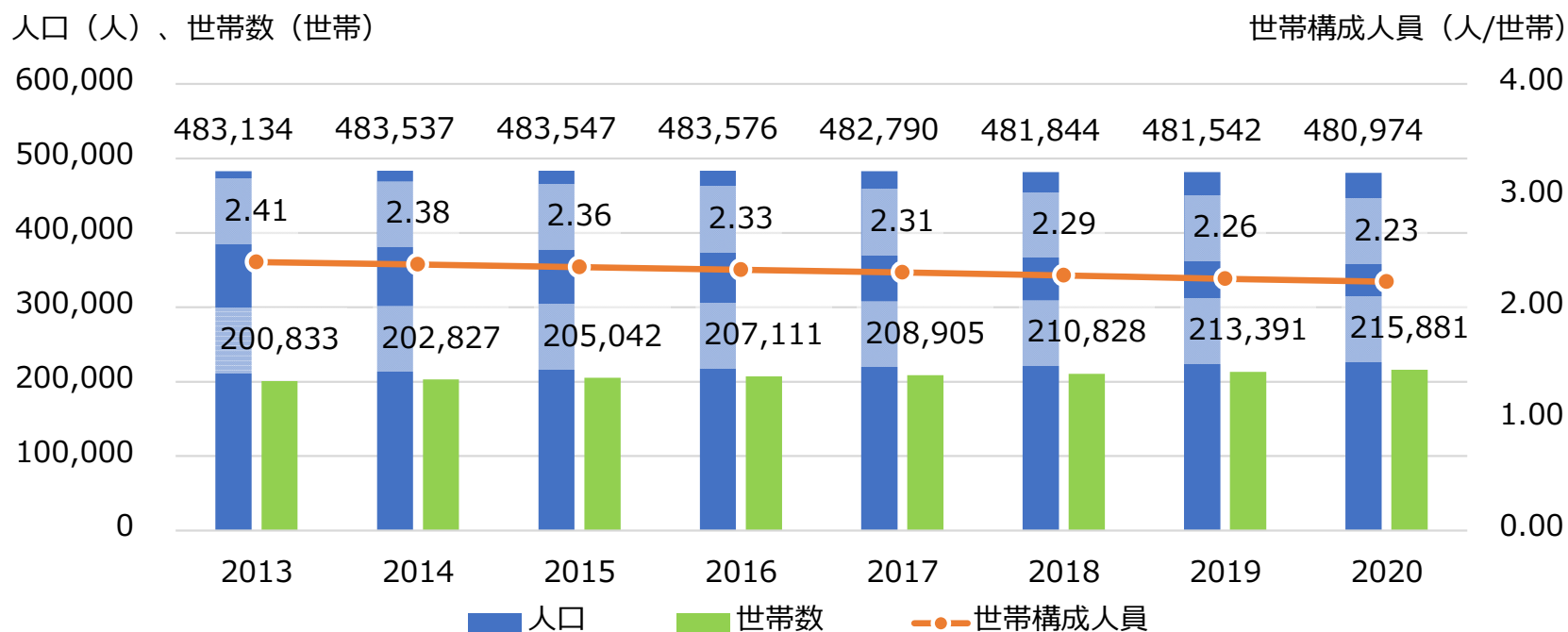
高梁川流域圏における民有地面積の構成比

自治体	民有地面積の構成比 (%)				
	宅地	田	畑	山林	原野
倉敷市	42.6	20.2	12.0	24.0	1.3
笠岡市	19.3	12.4	27.6	36.8	3.8
井原市	6.0	10.3	11.4	68.2	4.0
総社市	12.1	21.1	5.1	59.3	2.4
高梁市	2.2	6.0	4.8	82.7	4.3
新見市	1.8	6.7	3.6	85.0	2.9
浅口市	18.0	16.6	15.5	46.3	3.6
早島町	52.5	30.5	5.8	10.9	0.3
里庄町	33.7	19.2	24.0	21.1	2.0
矢掛町	9.3	19.5	7.9	57.4	5.9



4. 人口

- 本市の人口は、2016年度をピークに減少に転じ、2020年度末には480,974人となっている。なお、市独自の推計によると、2045年には459,000人程度になる見込みとなっている。
- 一方で、世帯数は増加傾向にあるため、世帯構成人員は減少傾向にあり、2020年度末には2.23人となっている。



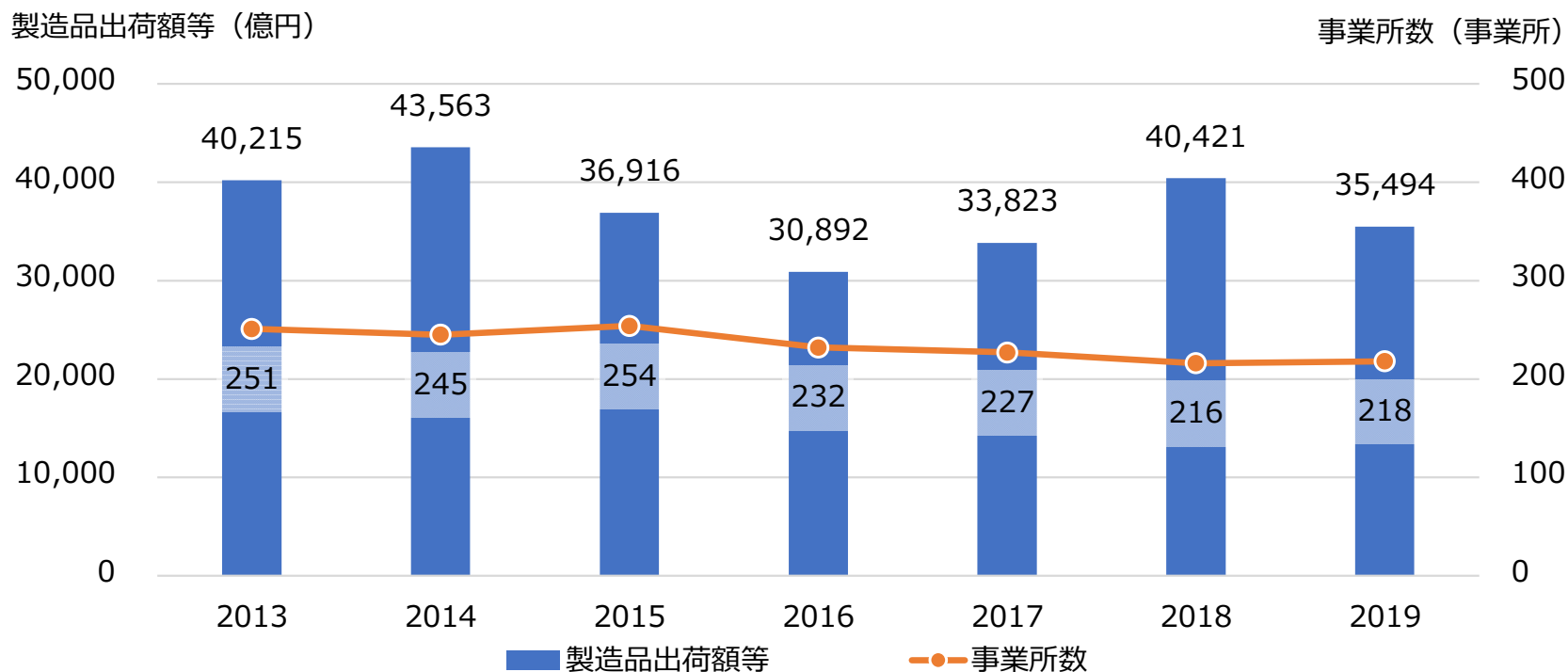
人口及び世帯数の推移（各年度3月31日現在）

※出典：倉敷市統計書



5. 産業

- ❑ 水島コンビナートは、瀬戸内海に臨む総面積約2,500haに200を超える事業所が立地する全国有数の重化学コンビナートであり、石油精製、鉄鋼生産、石油化学・鉄鋼関連化学工業、自動車工業等、日本を代表する企業が多く立地している。
- ❑ 水島コンビナートの製造品出荷額等は4兆円前後で推移しており、内訳としては石油製品・石炭製品製造業が最も多く、次いで鉄鋼業、化学工業となっている。また、岡山県全体の製造品出荷額等に占める割合は、2019年度には46.1%となっており、岡山県下における製造業の重要な役割を担っている。



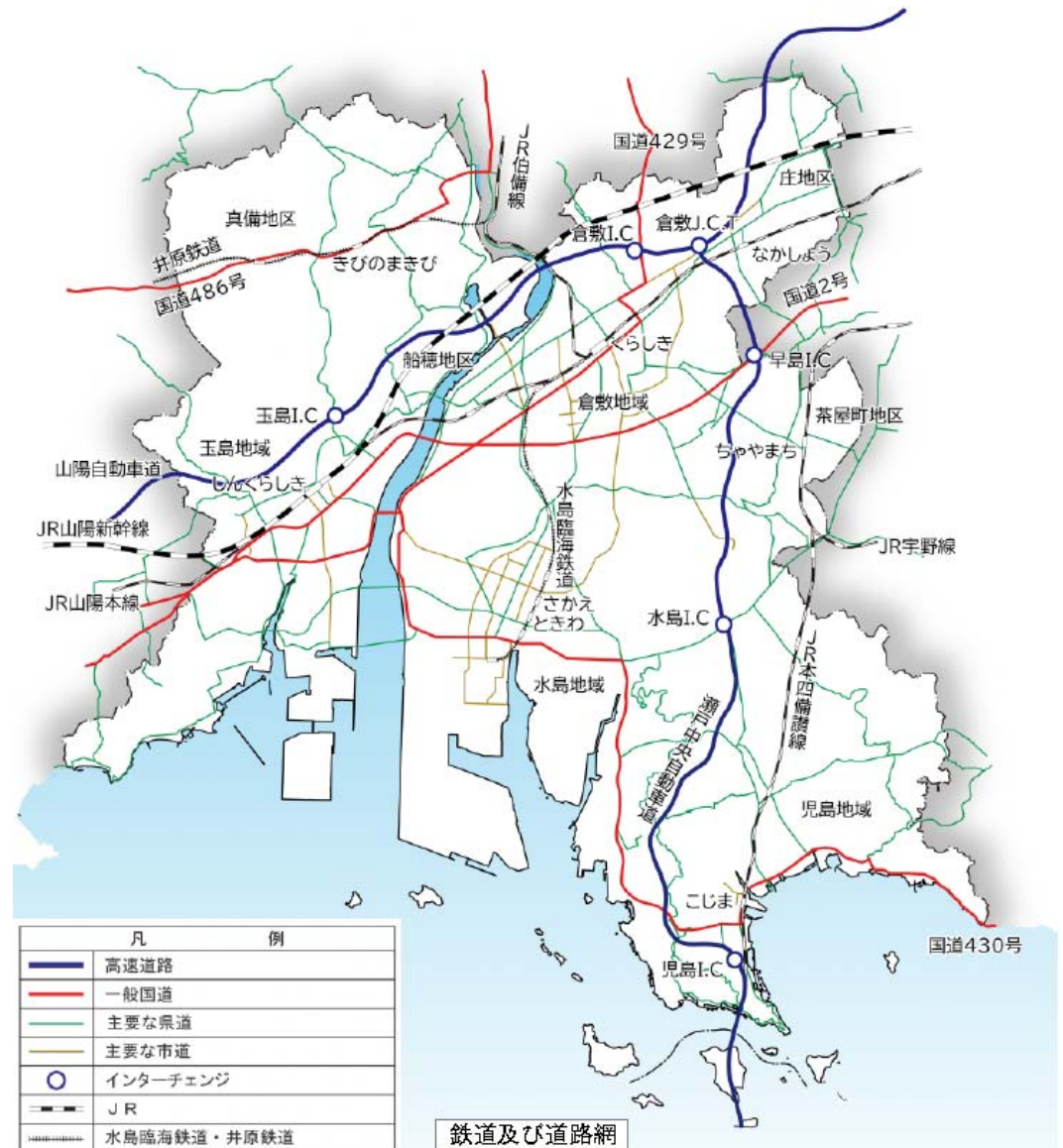
水島コンビナートの製造品出荷額等及び事業所数の推移

※出典：倉敷市統計書



6. 交通 ①

- 本市は、東西に国土軸を形成している基幹的交通軸上にあるとともに、南北にも四国や山陰と結ぶ広域交通網の結節点として、道路・鉄道等の主要な交通網が集中している。
- 広域的な高規格幹線道路は、山陽自動車道、瀬戸中央自動車道が整備されている。
- 鉄道は、東西方向にJR山陽新幹線、JR山陽本線が、四国や山陰を結ぶ南北方向にJR本四備讃線、JR伯備線が運行されている。その他、倉敷地域と水島地域を結ぶ水島臨海鉄道や真備地区には井原鉄道も運行されている。



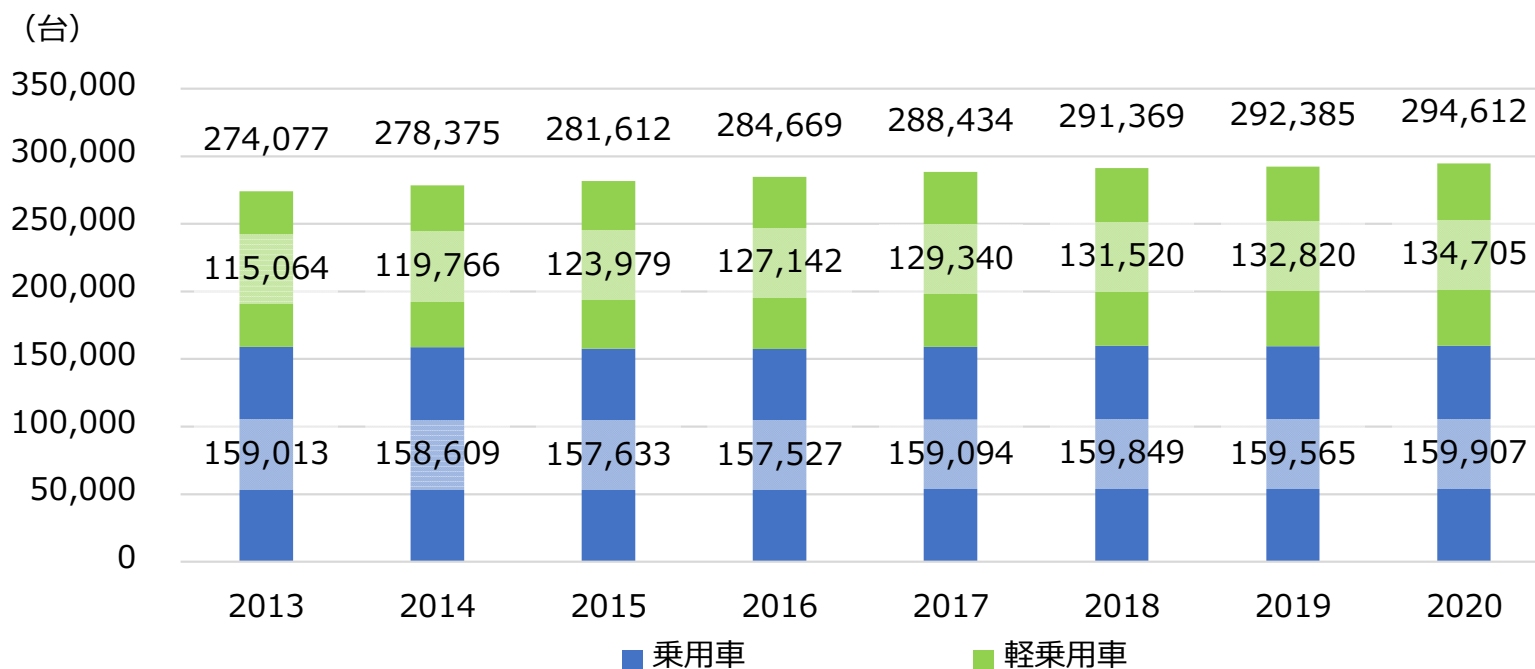
本市の鉄道及び道路網

※出典：倉敷市都市計画マスタープラン



6. 交通 ②

- 本市の自動車保有台数を見ると、乗用車と軽乗用車の総数は増加傾向にあり、2020年度には294,612台（2013年度比で7.5%増加）となっている。
- 内訳では、乗用車が0.6%増加（159,013台→159,907台）、軽乗用車が17.1%増加（115,064台→134,705台）となっている。

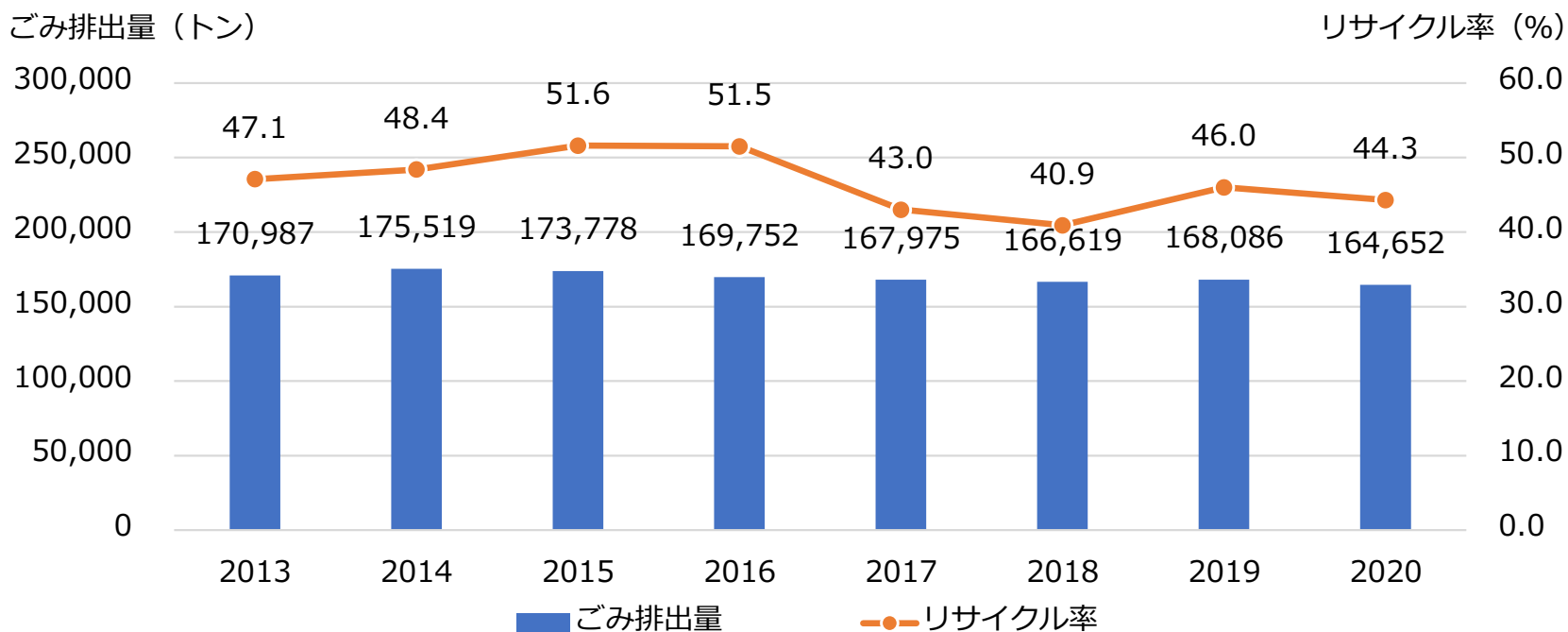
自動車保有台数の推移

※出典：倉敷市統計書



7. 廃棄物

- 本市のごみ排出量は、増減を繰り返しながらも徐々に減少しており、2020年度には164,652トンとなっている。
- リサイクル率については、2005年度から資源循環型廃棄物処理施設が本格稼働したことから、高い水準で推移しており、2020年度には44.3%となっている。
- 一方、資源循環型廃棄物処理施設分を除いたリサイクル率は2020年度に11.1%と低水準であることや、ごみ排出量が依然高水準で推移していることなどから、より一層のごみ減量、資源化が求められる。



ごみ排出量及びリサイクル率の推移

※出典：倉敷市清掃事業概要